

勝浦中学校改築計画審議会第2次報告書

平成22年6月28日

勝浦中学校改築計画審議会

はじめに

勝浦中学校の改築については、平成 20 年度に設置された勝浦町公立学校改築・改修検討委員会において、検討がなされた。その検討委員会の報告書では、現在地において改築することが望ましく、その改築にあたって必要と考えられる施設整備などの項目が示された。また、実際の改築に当たってはプロジェクトチームなどを立ち上げて改築内容などを検討するよう報告がなされている。

勝浦中学校改築計画審議会は、この報告書に基づき勝浦中学校の改築計画にかかる審議を行うことを目的に平成 21 年 9 月に設置され、昨年度から 7 回の会議を開催し改築についての審議を行った。本審議会では、検討委員会の報告を十分に尊重しながら、いかに実際の改築に反映すべきかを審議し、平成 21 年 11 月には基本構想について案を示し中間報告（第 1 次報告）を行った。構想決定後は、計画設計に最もふさわしいと思われる設計者の選定を行う選定委員会にも参加しヒアリングなども行ってきた。

今回は、中間報告以降に審議を行った校舎や教室の配置についての審議結果を、第 2 次報告（最終報告）としてまとめたので報告する。

国では、平成 18 年 10 月教育再生会議が政府により設置され、以降多くの教育改革が推進されていった。それらの教育改革の推進の中で、教育基本法も 60 年ぶりに改正され“ 伝統と文化の尊重 ” が盛り込まれた。この改正を受け小中学校の学習指導要領も大きく改訂された。新学習指導要領では中学校の体育において、武道やダンス等を男女全員が履修することが義務付けられるなどの改訂もあり、これらに必要となってくる学習施設、設備も中学校の改築にあたっては当然配慮をしなければならないこととなった。

勝浦中学校の改築に当たっては、第一に生徒の安全安心の確保、また楽しく喜びを感じ誇りを持てる校舎など、より良い学習環境を整備することが最重要である。このことを十分にご理解いただいたうえで、児童生徒の減少、高度科学技術の進展、情報技術の進歩等を考慮し、勝浦町の長期的な視野に立ち、将来像を見据えた計画が作成されることを強く望むものである。

今後の建築計画にあたっては、町民の代表である議会や、教職に関わっている現場教職員ら関係者の意見を十分に反映し、町の宝である生徒たちにとって最良で快適な学校生活ができる勝浦中学校の改築が行われることを委員一同願っている。

平成 22 年 6 月 28 日

勝浦中学校改築計画審議会

1 校舎配置の検討

校舎の配置については、現敷地で考えられる4案（A案～D案）を検討した。案での主な校舎位置は、A案・D案が敷地の北側（現校舎位置付近）、B案が敷地の南側、C案が敷地の西側（体育館横）の3か所である。各案の詳細比較は資料「配置比較表」とおりとなっている。

現敷地内での校舎改築を考える場合には、各位置における特性を理解し実際のプランを検討することが必要である。このため、まず校舎の配置について検討を行った。

配置に係る考え方として、現運動場の形（長方形）・広さの確保を前提として、前述の3か所4案を想定し、それらの特性と運動場・仮設校舎の関係など費用も含め比較した。ここでは、主に配置を検討するため、校舎は運動場がいびつな格好とならないようにできるだけ横長で、よく似た形状のものとしている。（形状を検討する場合には、階層の増加や形を複雑にすることに伴い、共用部分の廊下や階段・便所などが増えるため面積効率は悪くなることも考慮する必要がある。）

一般的に学校校舎は東西軸（南北に窓が配置される）の校舎が採光及び熱負荷の面でよいとされているため、C案では改築の設計プラン面での工夫も必要となる。

仮設校舎が必要のないB案C案の配置では、いかに現校舎配置から劣る部分を改善（グラウンドの閉鎖感の軽減、農地等への影の影響の軽減、建物間の動線の考慮、採光・熱負荷の考慮など）できるかのプラン案まで掘り下げ検討も行った。D案は安全面での問題が大きいため、プラン案まで掘り下げた検討は行わないこととした。

以上を踏まえた主な評価は次のとおりとなっている。

< A案について >

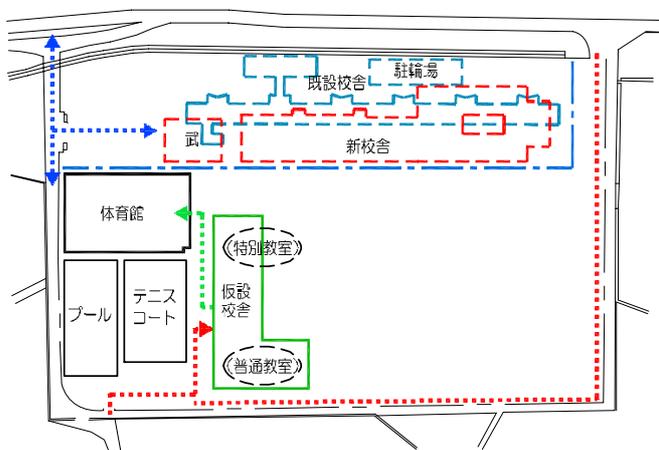
完成後は、校舎は東西軸となり、位置も現行と同様で改築後の環境は最適となる。グラウンドも現在と同等の確保ができる。グラウンド南面など2方向が大きく開かれており、開放感や地域からの一体感もある。現校舎と同位置になるため、卒業生からもなじみやすく親しみやすい環境となる。

工事期間中は、普通教室については工事現場と離れており良好となり、グラウンドも過半が利用可能となっている。しかし、仮設校舎が必要となるため仮設校舎への移動や費用の負担が生じる。

A案

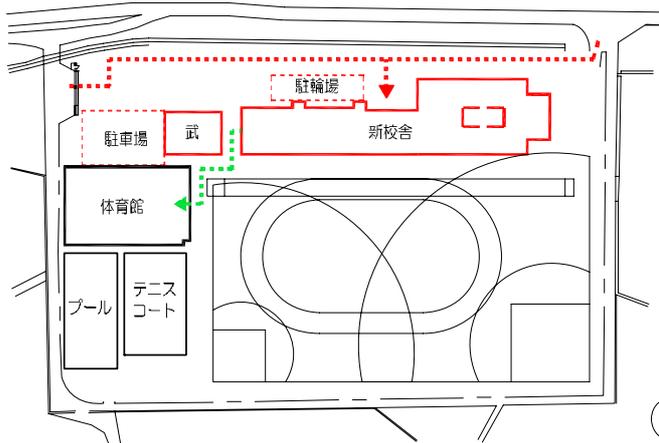
工事期間中

- - - - -▶ 生徒動線
- - - - -▶ 体育館動線
- - - - -▶ 工事動線
- — — — — 仮囲い
- - - - - 新築工事
- - - - - 解体工事



完成後

- - - - -▶ 生徒動線
- - - - -▶ 体育館動線

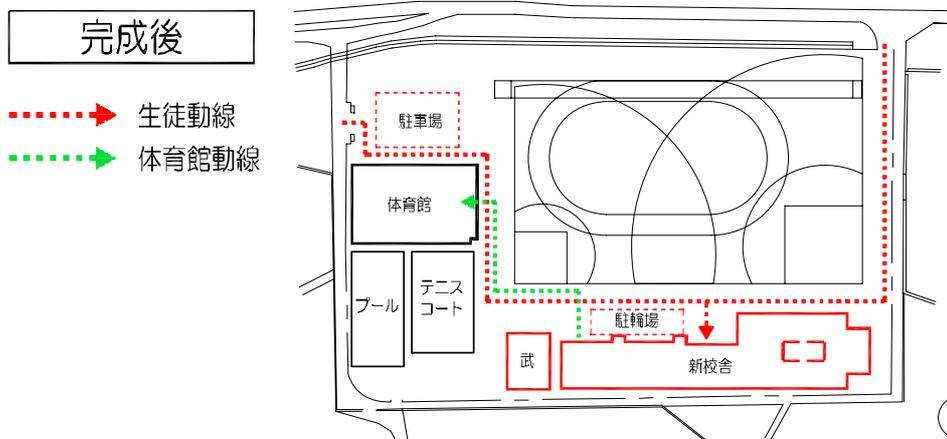
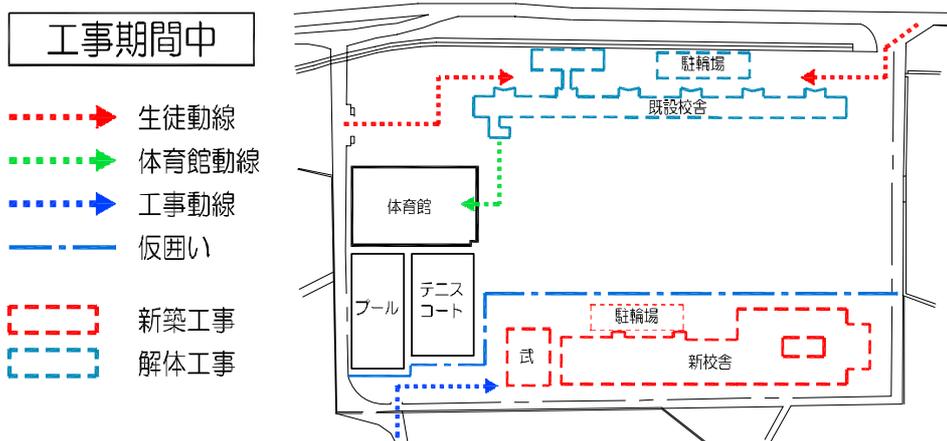


< B案について >

完成後は、校舎は東西軸となり、位置は現行と対角の南側となるが、改築後の環境は最適となる。しかし、グラウンドは東西両側に通路が必要となるため現行よりは若干狭くなる。校舎の影も若干の影響を受ける可能性がある（資料：影響予想図を添付）。また、建物間の動線が長くなるため配慮が必要である。南側が校舎となりグラウンドは土手や体育館などで囲まれるため1方向にしか開かれなくなり、開放感や地域からの一体感は制限される。

工事期間中は、校舎については工事現場と離れており最適となるが、グラウンドは再整備が必要となるため、工事期間中の使用は非常に難しい。しかし、仮設校舎は必要なく費用の負担が少ない。

B案



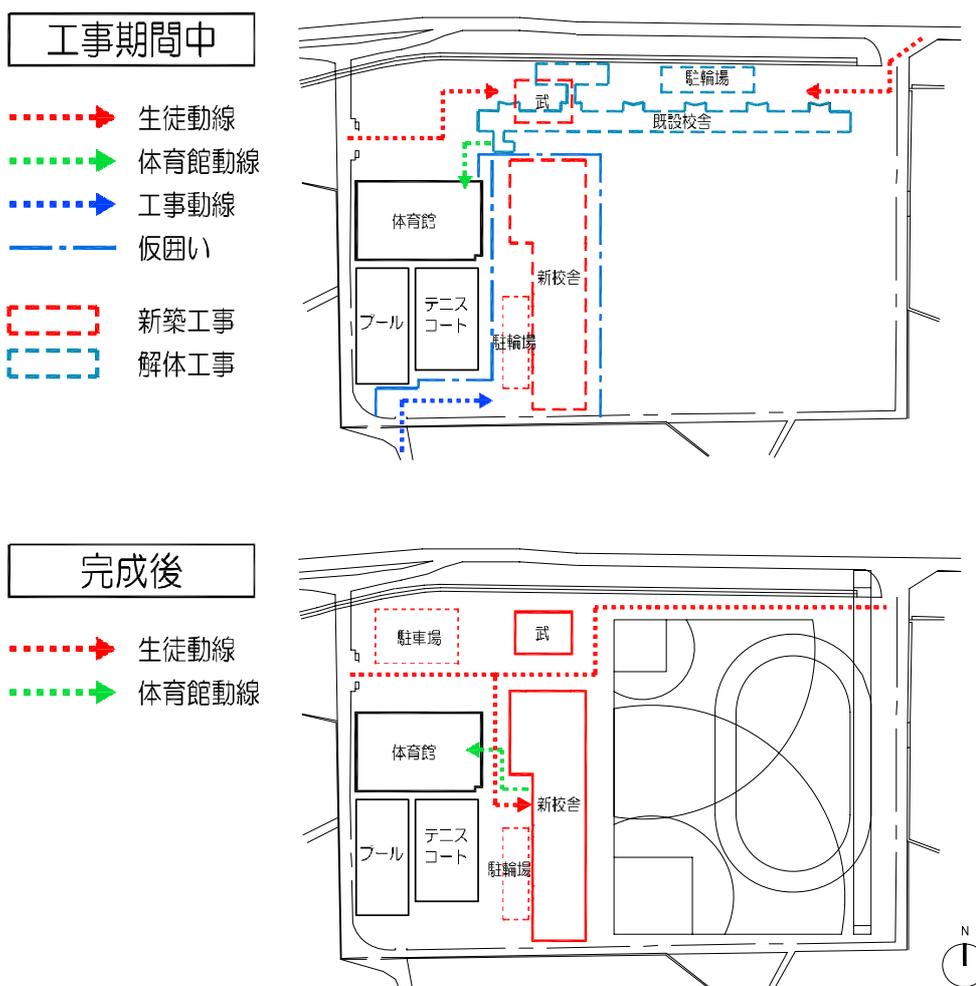
< C案について >

完成後は、校舎は南北軸となり、位置は体育館横となるが、採光・熱負荷の問題が大きく改築後の環境は、設計プランでの工夫により改善が必要である。グラウンドは、南北方向へ長くなり広さも若干狭くなる。校舎の影も若干の影響を受ける。グラウンド南面など2方向は開かれており、開放感や地域からの一体感もある。

工事期間中は、校舎が工事現場と近い部分もあり騒音面での心配がある。グラウンドは一部再整備も必要となるため、使用できる部分は限られる。しかし、仮設校舎は必要なく費用の負担が少ない。

設計プランによる改善後の配置等は、資料 として添付しているが、廊下が長くなるなど面積効率が悪くなっている。

C案

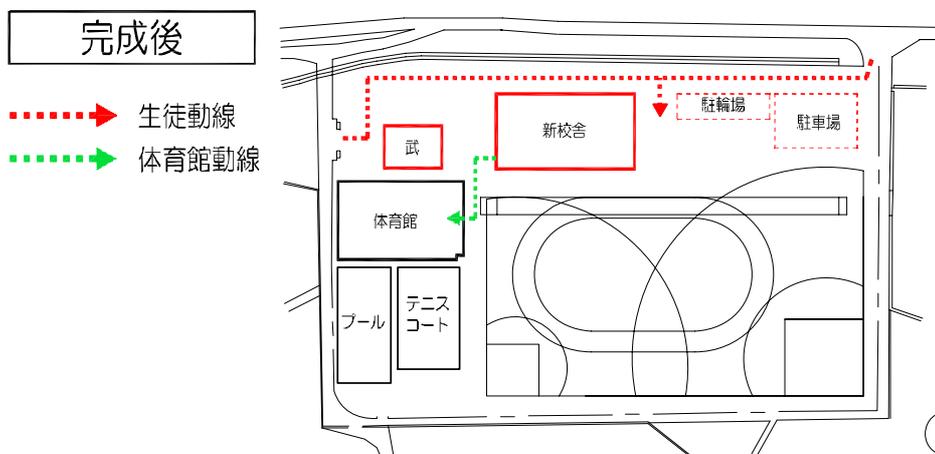
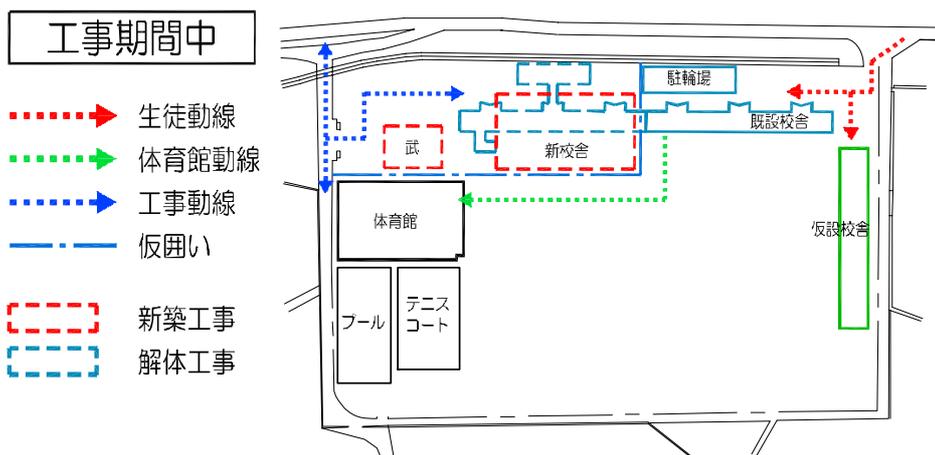


< D案について >

完成後は、校舎は東西軸となり、位置も現行と同様で改築後の環境は最適となる。グラウンドも現在と同等の確保ができる。グラウンド南面など2方向が大きく開かれており、開放感や地域からの一体感もある。現校舎と同位置になるため、卒業生からもなじみやすく親しみやすい環境となる。しかし、共用部分が重複するなど面積効率が悪くなる。

工事期間中は、工事部分と生徒の活動部分の分離が難しく安全面の確保や騒音対策が非常に難しい。グラウンドは小さな仮設校舎利用のみとなるため、過半が利用可能となっている。しかし、一部仮設校舎が必要となるため仮設校舎への移動や費用の負担が生じる。

D案



【審議会での主な審議事項】

- ◆ 校舎、教室及び廊下などの配置
- ◆ 日照や熱負荷
- ◆ 農地への影や光、排水の影響
- ◆ 改築費用
- ◆ 校門、校舎、体育館、武道場、駐輪場間の動線
- ◆ 開かれた学校、町と一体感のある学校
- ◆ エコ対策
- ◆ 仮設校舎の設置
- ◆ 駐輪場の配置
- ◆ 勝浦中学校の歴史や思い出
- ◆ 工事期間中の制限事項
- ◆ 300メートルのトラックや120メートル走用のコースの確保
- ◆ グラウンドの環境や野球場の確保
- ◆ 部室、倉庫、屋外トイレの配置
- ◆ テニスコートの移転及びナイター設備

2 検討結果

校舎の配置については、町の仮設校舎は設置しないとの大きな意向もあるため、審議会としては上位 2 案を報告することとした。本審議会で最善であるとしたのは第 1 位案（現校舎位置への建て替え）であり仮設校舎が必要である。その次の案とした第 2 位案（グラウンド南側への建て替え）は仮設校舎が不要となっている。

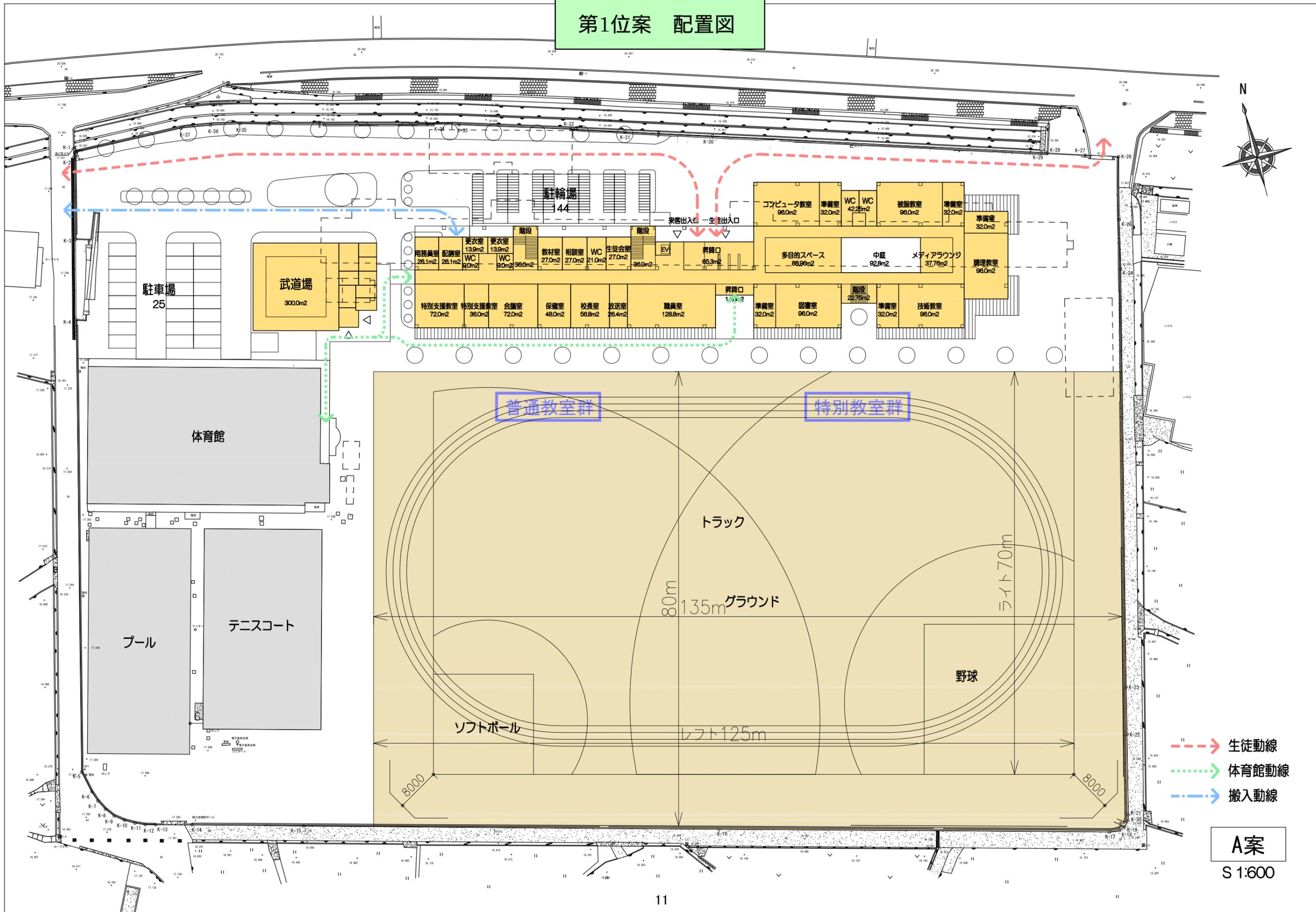
平面配置については、基本構想及び基本構想添付の保護者アンケート・教職員意見を審議した結果を踏まえ計画している。第 2 位案は第 1 位案に劣る部分を考慮し、設計プランのできる範囲での改善を加えている。両案とも校舎の形状は似ているため、各教室の接する窓等の方角を除き、部屋の割り振り及び面積の入れ替えは可能となっている。このため主に第 1 位案には考え方の説明を、第 2 位案にはより詳細な記載を行っている。

第1位案

以下の理由等により本案が最善であるとした。

- 現行校舎と同様の配置となるため、周辺農地等への影響の変化は少なく、現中学校のイメージの継承が感じられ卒業生等からの親しみなども得やすい。
- 各建物間の動線も現状と変わらず短いため、利便性が高い。
- 運動場南側が開かれており開放感があり、開かれた学校としての町との一体感も感じられる。
- 工事期間中の利用可能なグラウンドも比較的広く、生徒への制限も少ないと考えられる。

第1位案 配置図



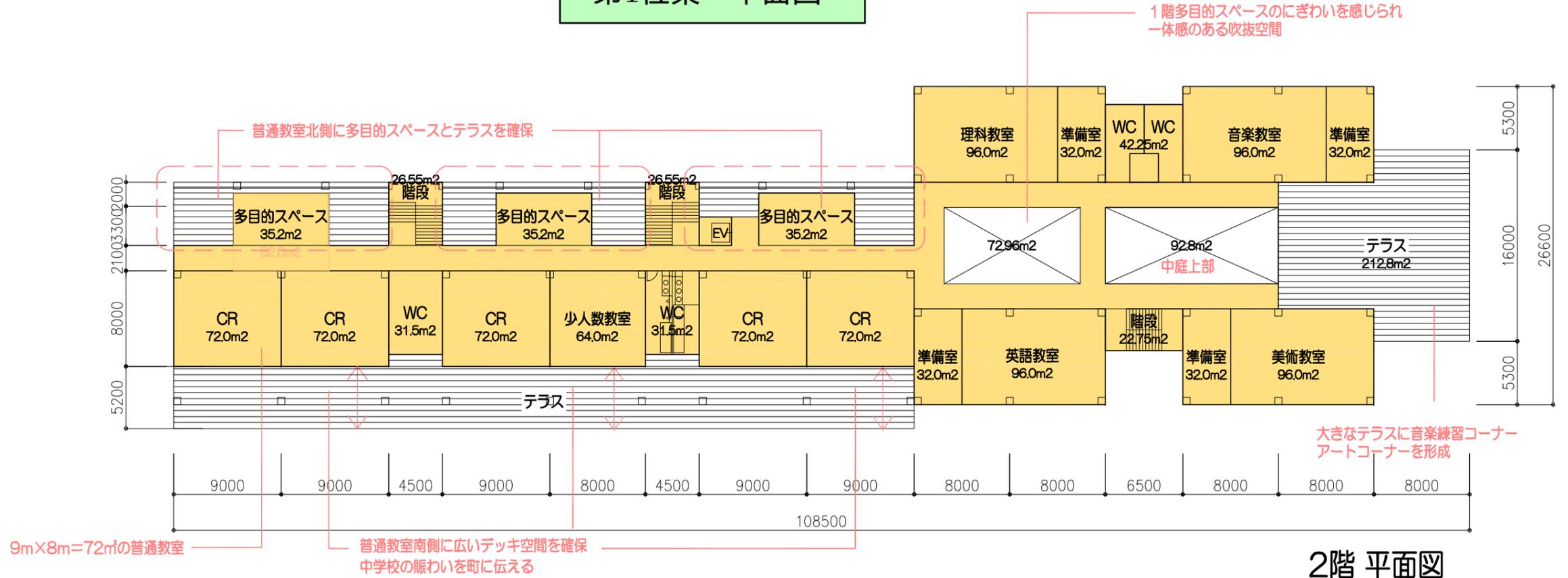
普通教室群

特別教室群

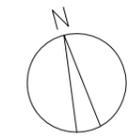
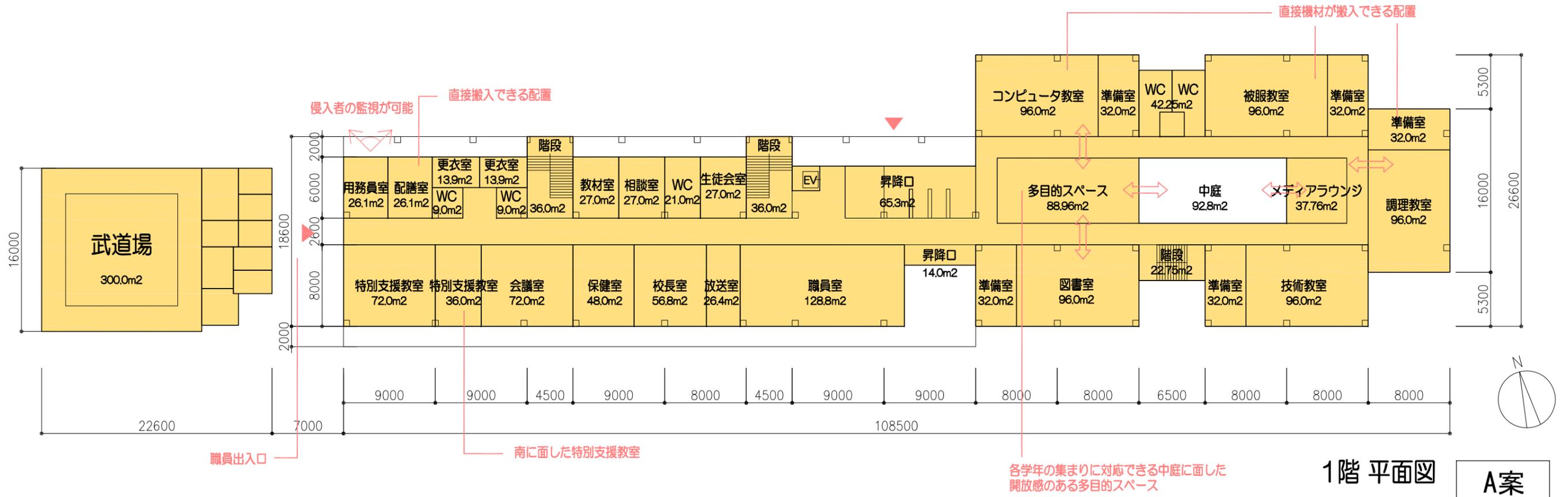
- - - → 生徒動線
- . . . → 体育館動線
- - - → 搬入動線

A案
S 1:600

第1位案 平面図



2階 平面図



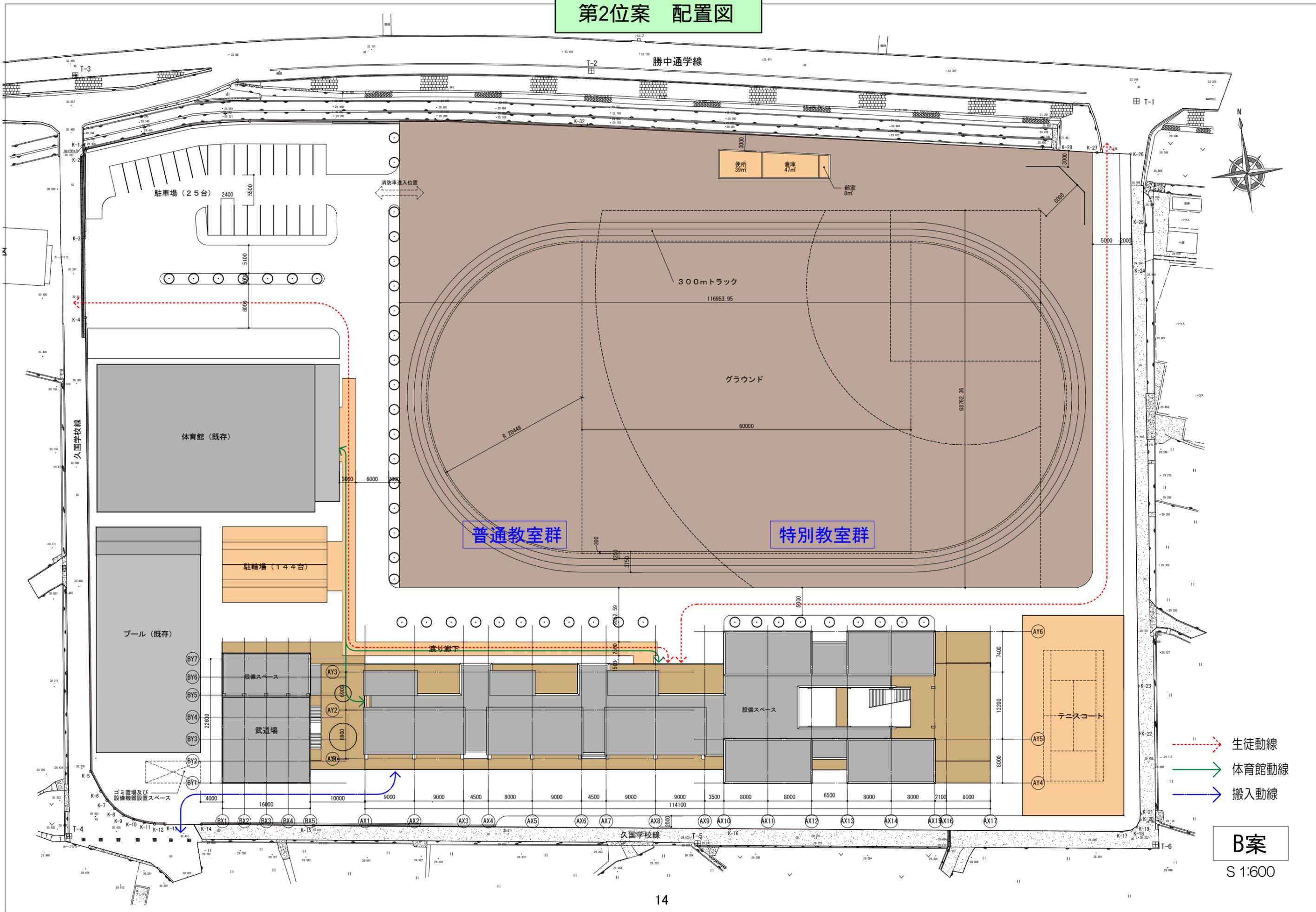
A案
S 1:400

第 2 位案

設計プラン面の改善策として以下のとおり配慮した。

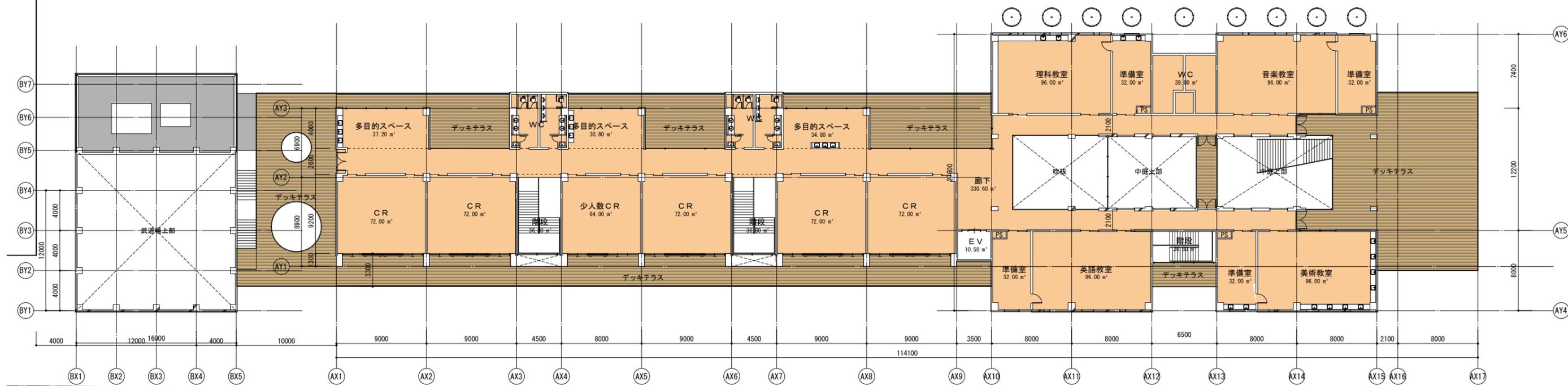
- 建物の影で死角となる場所を少なくするため武道場は校舎西に配置し、体育館との間には駐輪場を配置している。
- 運動場が校舎・体育館・土手で囲まれ閉鎖的になる部分を、テニスコートの移動及び校舎東側の 2 階を取り除くなど改善を図っている。
- 建物間には屋根付きの通路を設置し移動経路に配慮している。

第2位案 配置図

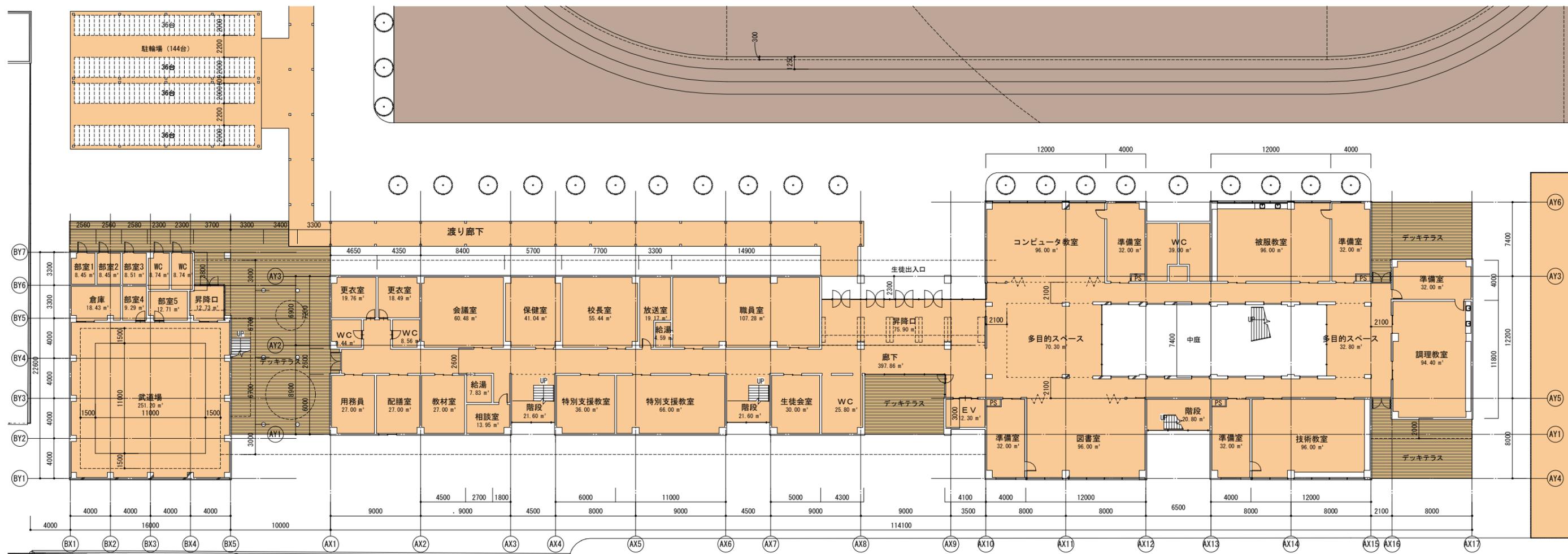


B案
S 1:600

第2位案 平面図



2階 平面図



1階 平面図

B案

S 1:400

3 校舎建築にあたっての留意事項

建築にあたって審議会として特に留意いただきたい事項を次に示す。

- 木のぬくもりが感じられる学校となるよう配慮すること。
- 空調設備は必要であるが、普通教室等については、設置運用について他学校の動向を十分に研究するなどして整備すること。
- バリアフリーやシックハウス対策などに配慮した人にやさしい設備環境とすること。
- 多様な利用に対応できるような移動しやすい壁などの工夫がされた設備とすること。
- エコ対策などを十分に行い、自然に優しい学校となるよう配慮し、勝浦町 CO2削減計画の目標達成に努力すること。(資料 : エコ対策として検討すべき案を添付)
- 武道場は、社会体育施設として開放できるよう配慮すること。
- 工事期間中は、生徒たちの安全確保のための措置を講ずること。
- 工事期間中の運動場の利用について、生徒の不利益が最小限になるよう十分な措置を講ずること。
- 旧校舎から新校舎になっても歴史が継承され、卒業生の思い出が語れる学校となるよう配慮すること。
- 校舎やグラウンドの整備に伴い、周辺農地等へ与える影響(光、排水など)を最小限に抑えるよう十分な配慮をすること。

参考資料

- 1.配置比較表 資料
- 2.影の影響予想図 資料
- 3.エコ対策について 資料
- 4.C案配置図及び平面図 資料
- 5.勝浦中学校改築計画審議会委員名簿 資料
- 6.勝浦中学校改築計画審議会等開催状況 資料

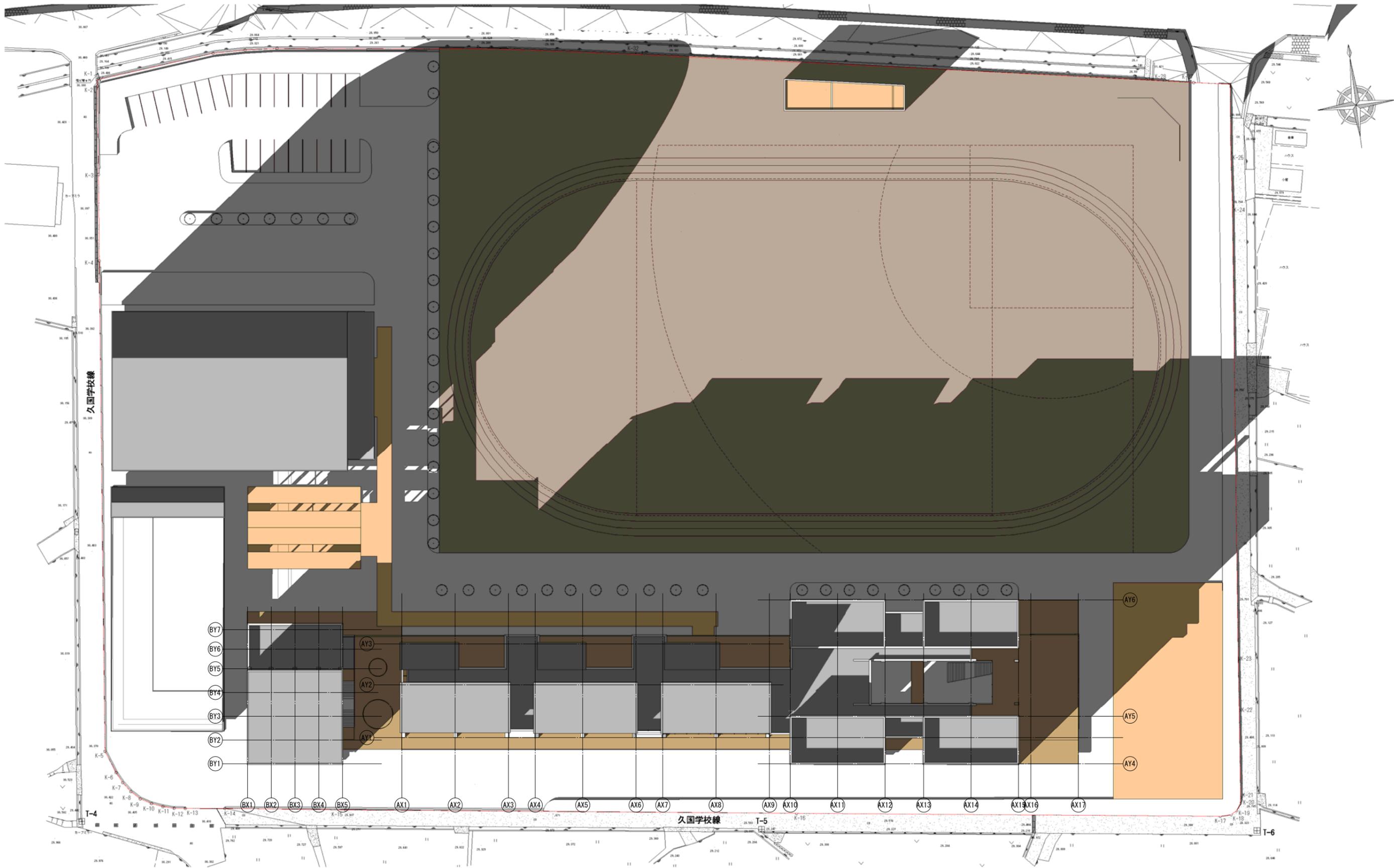
配置比較表

	A案	B案	C案	D案
工事期間中 生徒動線 (赤点線) 体育館動線 (緑点線) 工事動線 (青点線) 仮囲い (青実線) 新築工事 (赤点線) 解体工事 (青点線)				
	完成後 生徒動線 (赤点線) 体育館動線 (緑点線)			
計画の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 現在の校舎の位置に新校舎を建設（仮設校舎あり） 現状のグラウンドをほぼそのまま利用可能 工事期間中の生徒の学習環境はよい 	<ul style="list-style-type: none"> グラウンド南側に新校舎を建設（仮設校舎なし） 現状のグラウンドは再整備が必要 工事期間中の生徒の学習環境はよい 	<ul style="list-style-type: none"> グラウンド西側に新校舎を建設（仮設校舎なし） 現状のグラウンドは再整備が必要 工事期間中の生徒の学習環境は音・日照が懸念される 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の校舎の位置に新校舎（4階）を建設（仮設校舎あり） 現状のグラウンドをほぼそのまま利用可能 工事期間中の生徒の学習環境は音・震動が懸念される
工事中の騒音・日照	騒音・日照の影響は少ない	騒音・日照の影響は少ない	騒音の影響が大きい 日照の影響有	騒音・震動の影響が大きい 日照の影響は少ない
工事中の安全性	安全性確保可能	安全性確保可能	近接しているため、危険性も伴う	近接しているため、危険性も伴う
工事中のグラウンド利用	南東2面開放で過半の利用が可能	短辺方向の東面のみ開放で、制約が多い	南東2面開放で過半の利用が可能	長辺方向の南面のみ開放で、制約がやや多い
教室の採光	南面採光を確保	南面採光を確保	東西面採光・西日の影響を受ける	南面採光を確保
校舎からの眺望	良好	川からの距離がある	西面は体育館	良好
グラウンドの大きさ	既設とほぼ同等のスペースを確保	東西の通路狭くなる グラウンド全体の再整備が必要	正方形に近くかなり狭くなる グラウンド全体の再整備が必要	既設とほぼ同等のスペースを確保
グラウンドへの影の影響	良好	特に冬期に校舎の影が影響する	特に冬期に校舎の影が影響する	良好
周辺農地への影の影響	現状と同じ	冬期に校舎の影が影響する	現状と同じ	現状と同じ
建物への熱負荷の影響	東西軸配置が最適	東西軸配置が最適	南北軸は熱負荷が高い	正方形に近くなり熱負荷はやや高い
建物の階数	2階建	2階建	2階建	4階建 共用部が重複→面積効率が悪い
仮設校舎の有無	有	無	無	有
建物間の動線	現状並み	現状より長い	現状より近い	現状並み
工事費の比較（概算）	約8,700万円 増	基準 ±0	基準 ±0	約6,800万円 増

*工事費比較では、仮設校舎設置費用を約16,200万円、グラウンド再整備費用を約7,500万円として積算している。

影の影響予想図

資料



冬至（12月22日頃）16：00の日影

勝浦中学校校舎改築計画 エコ対策について

自然エネルギーの有効利用

- ・ 自然採光、自然換気を積極的に採用し、ランニングコストを低減。
- ・ 教室南面にルーバーを設置し、太陽熱負荷を制御。
- ・ 井戸水を活用した水冷式ヒートポンプエアコンを提案・検討。
- ・ 屋根の雨水を雨水タンクに集め、散水などに再利用。
- ・ 太陽光発電・ハイブリッド外灯（太陽光・風力）などを提案・検討。

廃棄物処理エネルギーコストの低減

- ・ 解体時に発生するコンクリートガラを砕石等へ再利用を検討。

建物のメンテナンスエネルギーコストの低減

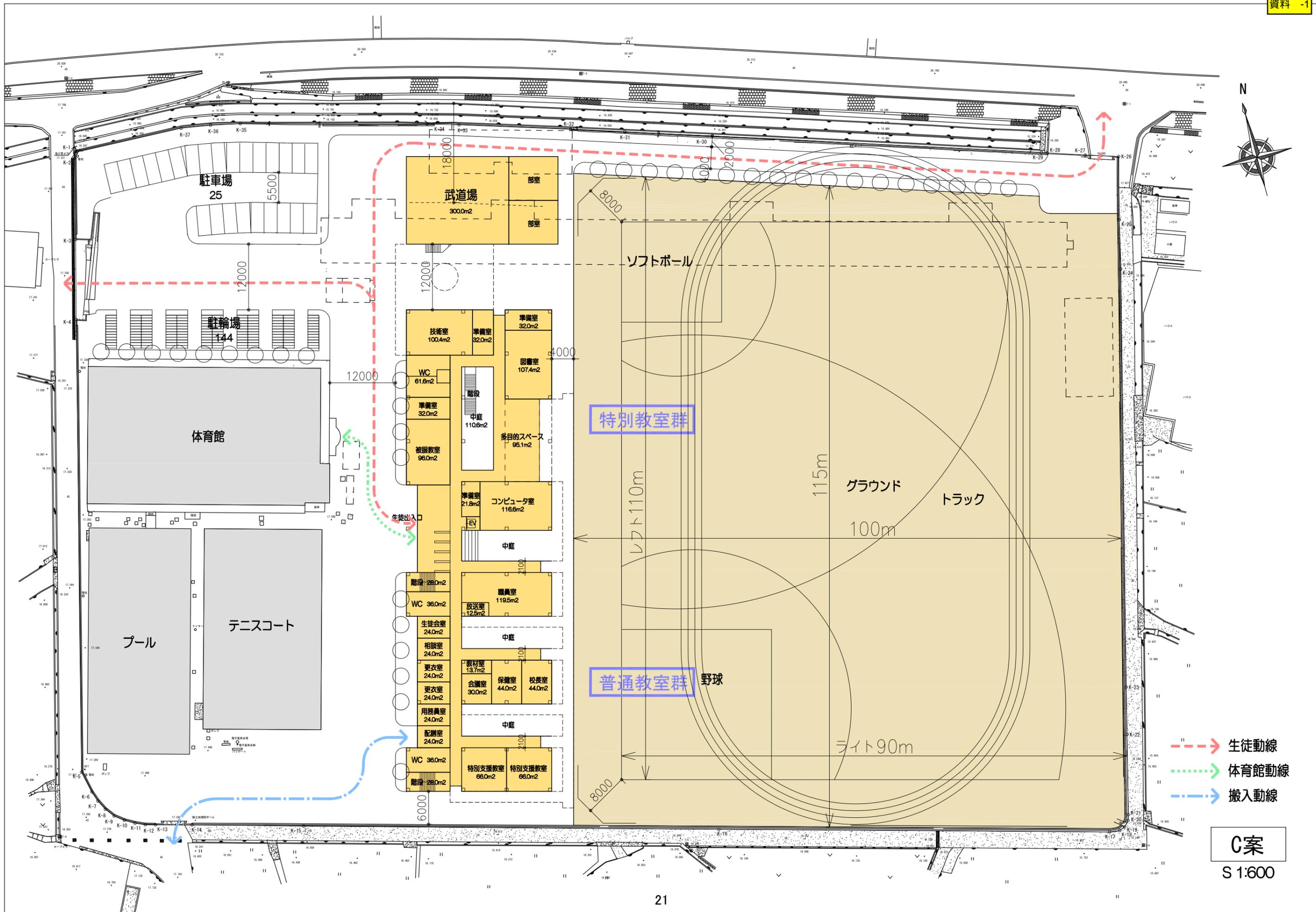
- ・ ひび割れ発生の抑制、中性化の防止に配慮した耐久性の高いコンクリートを採用。

エコマテリアルの採用

- ・ 徳島県認定リサイクル製品やグリーン購入法適合品、エコマーク認定商品などを積極的に採用。
- ・ 再生可能な材料である木材を家具や仕上材などに用い、ライフサイクル CO₂ を削減。
- ・ 地下躯体にリサイクル材である高炉セメントを採用。

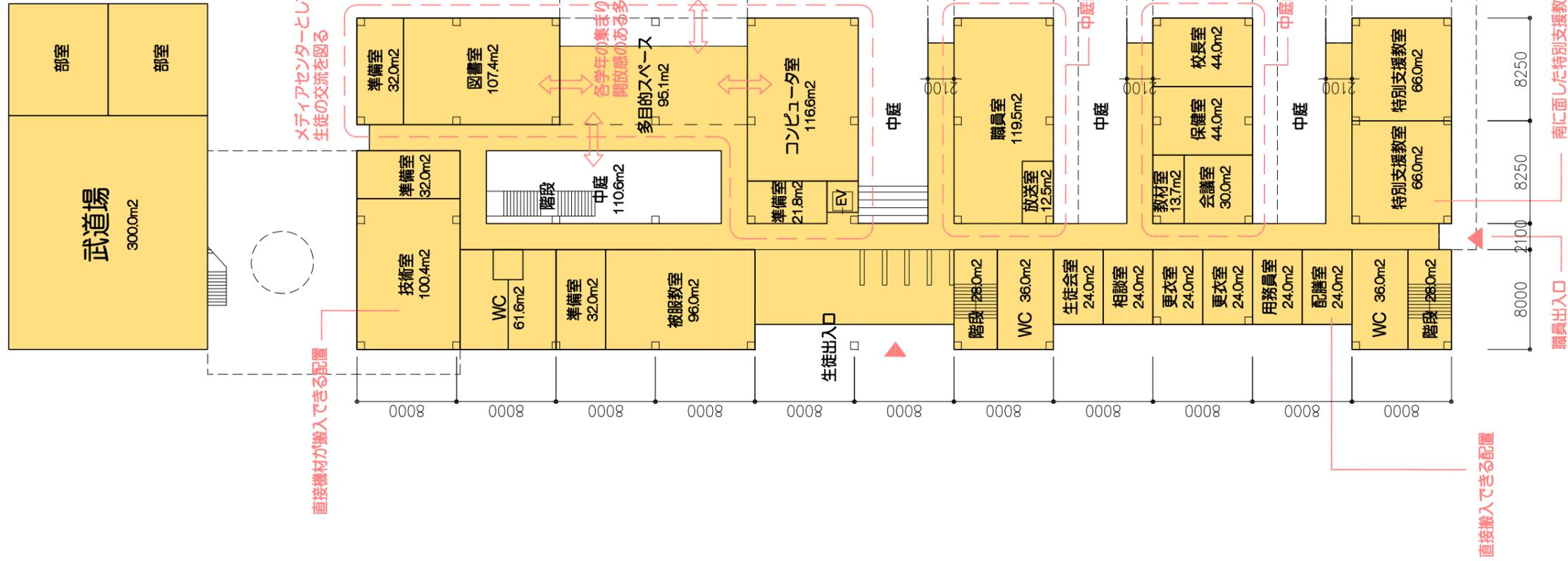
エコ設備機器の採用

- ・ 全熱交換機にて排熱を回収し、換気のエネルギーロスを抑制。
- ・ 節水コマや擬音装置、超節水型便器などを導入し、水の使用量を削減。
- ・ 浄化槽処理水を屋外散水用として再利用。
- ・ 高効率型の照明器具を採用
- ・ トイレ・階段照明に人感センサーを設置し、不要なエネルギー消費を削減。

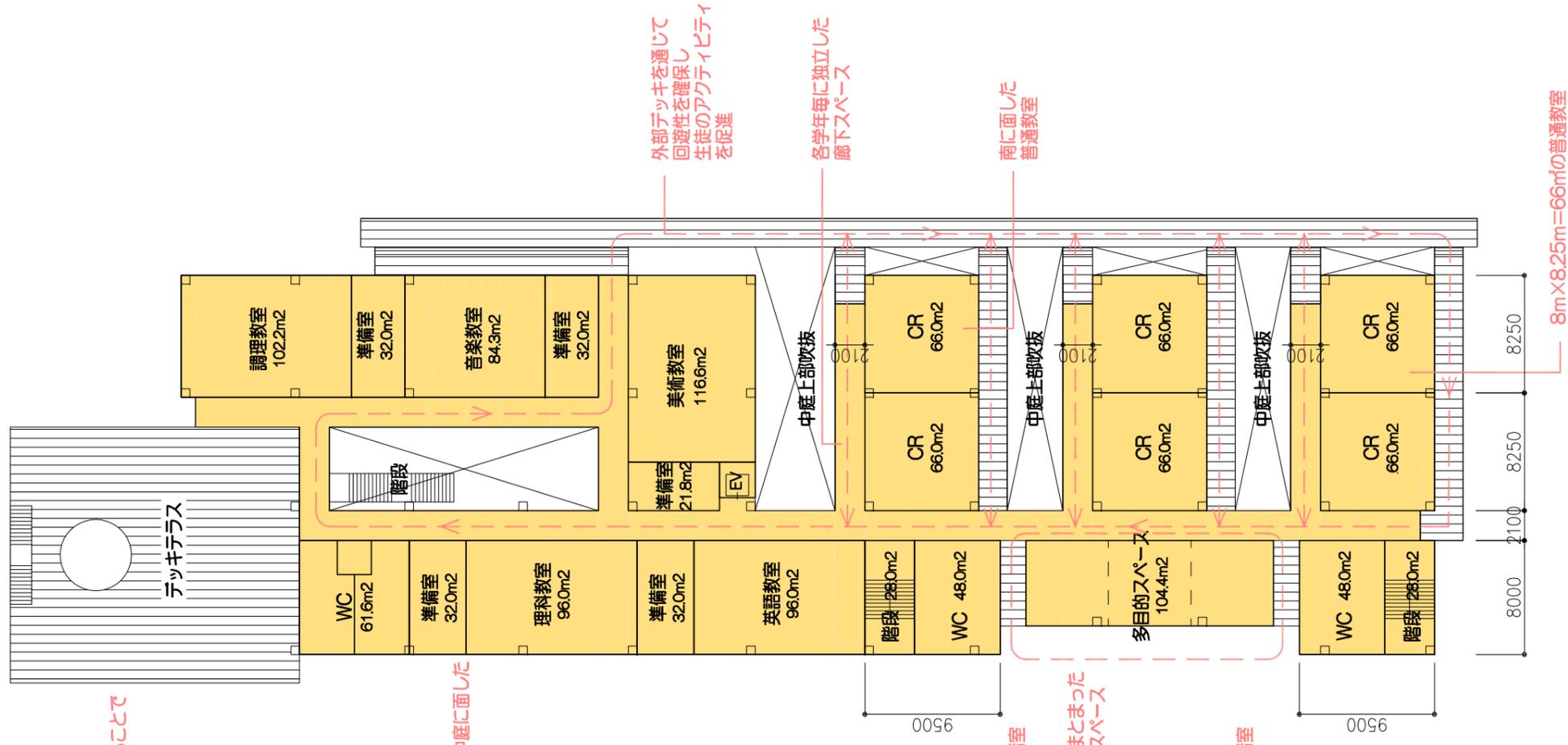


- - - - - → 生徒動線
- - - - - → 体育館動線
- - - - - → 搬入動線

C案
S 1:600



1階平面図



2階平面図

C案
S 1:400



勝浦中学校改築計画審議会等開催状況

日時	内容	備考
平成 21 年 9 月 17 日	第 1 回改築計画審議会	基本構想について審議
平成 21 年 10 月 21 日	第 2 回改築計画審議会	中間報告・基本構想案検討
平成 21 年 11 月	第 1 次報告書（中間）提出	
平成 21 年 12 月～ 平成 22 年 3 月	勝浦町建設コンサルタント選定委員会に参加	
平成 22 年 2 月 9 日	第 3 回改築計画審議会	学校視察（池田・川島・山川中学校）
平成 22 年 4 月 20 日	第 4 回改築計画審議会	校舎配置について審議
平成 22 年 5 月 12 日	第 5 回改築計画審議会	校舎配置について審議
平成 22 年 5 月 26 日	第 6 回改築計画審議会	校舎配置・平面計画について審議
平成 22 年 6 月 8 日	第 7 回改築計画審議会	最終報告書案について審議
平成 22 年 6 月	第 2 次報告書（最終）提出	